

# OpenAI <sup>1</sup> のサム・アルトマン <sup>2</sup> による India AI Impact Summit 2026 講演の検証レポート

## エグゼクティブサマリー

本件（「India AI Impact Summit 2026での講演で、2028年末までに“超知能”に到達し得ると述べ、AI独占が全体主義に繋がるリスクを警告し、AI民主化と国際ガバナンスを訴えた」）は、**インド政府の公式広報（Press Information Bureau／PIB）**が、講演内容を引用付きで要約しており、主要部分は一次情報に近い形で検証可能である。特に、PIBはアルトマンの発言として「現在の軌道なら“真の超知能”の初期版まで数年」「2028年末までに世界の知的能力の多くがデータセンター内に存在し得る」等を**英文引用**で掲載している。<sup>3</sup>

講演の“全文”については、サミット公式サイトが取得環境の制約で403となり確認できず、公式動画（YouTube等）の直接取得も技術的に制限があったため、**公式の逐語録（全文書き起こし）は一次情報としては未入手**である。<sup>4</sup> 一方で、ニュース映像に付随する文字起こし（例：Dailymotion掲載のIndia Today映像の“Transcript”）は長い連続部分を提供し、PIBや複数報道の引用と整合する箇所が多い。<sup>5</sup>

反応面では、サミットは「**New Delhi Declaration on AI Impact（ニューデリー宣言）**」を採択し、7つの柱（Chakras）と、Charter（民主的拡散）／Global AI Impact Commons／Trusted AI Commons等の“任意・非拘束”の国際取組を列挙した。これらはインド政府・外務省の公式文書として確認できる。<sup>6</sup> また、同時期にMicrosoft <sup>7</sup> のブラッド・スミス <sup>8</sup> や仏大統領エマニュエル・マクロン <sup>9</sup>、国連事務総長アントニオ・グテーレス <sup>10</sup> らが、規制・包摂・子どもの安全・国際協調をめぐる異なる強調点で発信しており、国際ガバナンスをめぐる温度差（特に「中央集権的規制」への賛否）が報じられている。<sup>11</sup>

結論として、アルトマンの「2028年末」言及と「独占→全体主義リスク」「民主化+IAEA型の国際調整」主張は、**少なくとも“インド政府公式広報に引用された発言”として実在し、複数報道とも概ね整合する**。<sup>12</sup> ただし、「超知能」タイムラインや根拠は、AI業界内で見解が割れており（例：デミス・ハサビス <sup>13</sup> はAGIを5～8年程度とし限界も列挙、ヤン・ルカン <sup>14</sup> はAGI概念自体を強く否定）、発言は“確定予測”ではなく“高不確実な仮説的シナリオ提示”として扱うのが厳密である。<sup>15</sup>

## 検証可能な一次情報と出典評価

講演が行われた枠組みは、インド <sup>16</sup> 政府（中心はインド電子情報技術省 <sup>17</sup> 関連）による“AI Impact Summit”で、会場はBharat Mandapam <sup>18</sup>（ニューデリー <sup>19</sup>）とされる。公式アプリ（MeitY, Government of India）説明文は「2月15日から20日まで」と開催期間を明示している。<sup>20</sup> 一方、ニューデリー宣言・外務省広報では、サミット（宣言採択の本体）を「2月18-19日」と位置づけているため、“**サミット週（展示・関連行事）**”と“**宣言採択のコア日程**”が併存していた可能性が高い。<sup>21</sup>

講演内容の一次情報として最も重いのは、Press Information Bureau <sup>22</sup>（PIB）が配信した「Global Tech Leaders Outline a Democratic, Inclusive AI Future...」であり、アルトマン発言を**英文引用**で掲載している。<sup>3</sup>

次に、宣言や成果物の一次情報として、インド外務省 <sup>23</sup>（MEA）の「AI Impact Summit Declaration」および、PIB/MEAの「採択でサミットが終了した」旨のリリースが重要である。<sup>24</sup> 加えて、OpenAI <sup>1</sup> 自身がサミット場で「OpenAI for India」を立ち上げたとする公式声明を公表してお

り、インドでのデータセンター協業・教育・拠点拡大など“民主化（普及）”を実装面で補強する材料になっている。<sup>25</sup>

一方で、**公式サミットサイト** (impact.indiaai.gov.in) は本調査環境では403が発生し、主催者側が提供している可能性のある公式動画・公式逐語録・主催者資料ページの一部にアクセスできなかった。同様に、YouTube等の一次動画を直接開くことも制限され、公式動画の視聴による逐語チェックは未達である。<sup>26</sup> このギャップを埋める補助として、ニュース映像（例：Dailymotion掲載のIndia Today映像）のトランスクリプト、CNN<sup>27</sup>の番組トランスクリプト、複数メディア（NDTV、Hindustan Times、Mint等）の直接引用を突合し、発言の整合性を確認した。<sup>28</sup>

未確認情報（本レポートで明示的に“未確認”扱い）

- ・サミット主催者が公開した「公式フル動画」「公式逐語録（全文）」の有無とその内容（サイト403のため）。<sup>29</sup>
- ・アルトマンが“2028年末までに超知能に到達”という趣旨を、どの範囲まで「確信」ではなく「条件付き推測」として語ったかの全体ニュアンス（PIB引用部分以外は二次トランスクリプト依存）。<sup>30</sup>

仮定（分析・確率評価に用いる前提）

- ・「全体主義リスク」は、(a) AIを用いた監視・検閲・操作の高度化、(b) 強力モデル＋計算資源の集中、(c) 権力の抑制装置（法・司法・独立規制・市民社会）が弱い状況、の組合せで“現実化”すると仮定する（定義は本レポート内で一貫して使用）。<sup>31</sup>
- ・「超知能」の技術的含意は、少なくとも“研究・意思決定・組織運営で人間トップ層を広範に上回る能力”を含む、という講演内の用い方に合わせる（後述の引用に基づく）。<sup>32</sup>

## 講演内容の詳細と文脈

講演は、急速な能力向上の実感→2028年含むタイムライン提示→民主化と集中リスク→社会的レジリエンス→国際ガバナンス（IAEA類比）という流れで構成されていたことが、PIB引用・報道引用・映像トランスクリプトから再構成できる。<sup>33</sup>

### 主要発言の正確な引用（英語原文と日本語訳）

以下の引用は、(A) 政府公式（PIB）、(B) 主要メディアの直接引用、(C) 映像トランスクリプトの順で優先度を整理し、同趣旨の箇所を相互参照している。

#### 超知能のタイムライン提示（PIBで確認可能）

English: “On our current trajectory, we believe we may be only a couple of years away from early versions of true super intelligence.”<sup>3</sup>

日本語訳：「現在の軌道上では、真の“超知能”の初期版まで、あと数年しかないかもしれないと私たちは考えています。」

English: “If we are right, by the end of 2028, more of the world's intellectual capacity could reside inside of data centers than outside of it.”<sup>3</sup>

日本語訳：「もし私たちが正しいなら、2028年末までに、世界の知的能力のより多くが、人間の外（データセンター内）に存在し得ます。」

この部分は、映像トランスクリプトでも同様に連続して現れ、少なくとも“同趣旨の発言が実際になされた”蓋然性を補強する。<sup>32</sup>

## AI民主化と集中（独占）の危険（PIB／CNN／複数報道で整合）

English: “Democratization of AI is the only fair and safe path forward.” <sup>3</sup>

日本語訳：「AIの民主化こそが、唯一、公正で安全な前進の道です。」

English: “Democratization of AI is the best way to ensure that humanity flourishes.” <sup>3</sup>

日本語訳：「AIの民主化は、人類が繁栄することを確実にする最良の方法です。」

English: “Centralisation of this technology in one company or country could lead to ruin.”

<sup>34</sup>

日本語訳：「この技術が一企業や一国に集中すれば、破滅に繋がります。」

CNN <sup>27</sup> の番組トランスクリプトも、民主化と集中リスク（ruin）を短いビデオクリップとして引用しており、少なくとも放送で同趣旨が確認できる。 <sup>35</sup>

## 全体主義リスクを“取引”として提示し拒否（Hindustan Times／映像トランスクリプトで整合）

English: “Some people want effective totalitarianism in exchange for a cure for cancer.”

<sup>36</sup>

日本語訳：「がん治療と引き換えに“有効な全体主義”を望む人もいます。」

English: “I don't think we should accept that tradeoff, nor do I think we need to.” <sup>36</sup>

日本語訳：「私はその取引を受け入れるべきだと思いませんし、そもそも受け入れる必要もないと思います。」

この“取引を拒否する”構図は、単に「全体主義が危険」という一般論ではなく、**医療利益などの重大便益を理由に自由を手放す誘惑**を想定した上で、民主的分散を規範として置く意図を示す。

## “共有（分散）と失敗許容”という民主主義的トレードオフ（Fortune India／映像トランスクリプトで整合）

English: “Sharing control means accepting that some things are going to go wrong...” <sup>37</sup>

日本語訳：「支配（コントロール）を共有するとは、いくつかのことがうまくいかないのを受け入れることでもあります…」

この直後に、単一の巨大失敗（“cemented totalitarian control”）を避ける趣旨が続くが、逐語全体の一次確認ができていないため、ここでは引用を短く留め、文脈は“整合する複数ソースがある”範囲で説明する。 <sup>37</sup>

## 社会的レジリエンスとバイオリスク（Mint引用で確認）

English: “There will be extremely capable biomodels... [that] could help people create new pathogens,” <sup>38</sup>

日本語訳：「極めて強力なバイオ（生物）モデルが登場し…新しい病原体を作ることを助け得る。」

“民主化（オープン化）”は価値だが、同時に危険なデュアルユースを増幅し得るため、彼は“社会全体での防衛（society-wide approach）”を要請したと報じられている。 <sup>39</sup>

## 国際ガバナンス（IAEA類比）

English: “We expect the world may need something like the IAEA for international coordination of AI,”<sup>40</sup>

日本語訳： 「AIの国際調整のために、世界はIAEAのようなものを必要とするかもしれません。」

NDTVは、これを「緊急に規制が必要」との文脈で報じ、国際機関の迅速対応性にも触れたとしている。<sup>34</sup>

## スピーチ前後・Q&Aの文脈

報道によれば、アルトマンは基調講演の後、限られた記者とのクローズドなやり取りで“根拠”を補足し、研究レベル数学問題の実績（First Proof）などを挙げて超知能到達の見通しを補強したとされる。<sup>41</sup> また、講演そのものも「もちろん間違っているかもしれない（we could be wrong）」と留保しつつ、重大なので真剣に検討すべきというトーンだったことが、映像トランスクリプトから読み取れる。<sup>32</sup>

## 反応の整理とメディア報道比較

### 政府・国際機関・企業・研究者・市民団体の主な反応

サミット全体としては、インド政府が「AI for All」「民主的拡散」「多言語・グローバルサウス」を前面に出し、**任意・非拘束の枠組み**（Charter／Commons等）を成果物として提示した。<sup>42</sup>

アシュウィニ・ヴァイシュナウ<sup>43</sup>は「New Delhi Frontier AI Commitments」を発表し、実世界利用の理解（雇用・生産性・影響）や、多言語・文脈評価の強化などを柱とする“自発的コミットメント”を説明している。<sup>44</sup>

対照的に、米国など一部では「中央集権的な規制」への抵抗が報じられ、インドの国際ガバナンス構想が必ずしも全面的な賛同を得ていないとの見立てもある。<sup>45</sup>

一方、仏のエマニュエル・マクロン<sup>9</sup>はEU型の規制を擁護し、子どもの保護を強調したと報じられ、国際場裏で規制哲学の違いが可視化された。<sup>46</sup>

企業側では、PIBがブラッド・スミス<sup>8</sup>の発言として、AIが格差を縮めるか拡大するかが今世紀の決定的問いになり得る、という趣旨を引用している。<sup>3</sup>

さらにOpenAI<sup>1</sup>自身は「OpenAI for India」を発表し、タタ・コンサルタンシー・サービスズ<sup>47</sup>のデータセンター事業を用いてインド国内にAI対応データセンター（当初100MW、将来的に1GWの可能性）を整備する、としている。これは“民主化＝アクセス拡大”の実装面の反応でもある。<sup>25</sup>

研究者・AI研究リーダーの反応としては、同サミット内で、デミス・ハサビス<sup>13</sup>がAGIを5～8年程度としつつ「継続学習」「長期計画」「一貫性（jaggedness問題）」などの未解決点を列挙したと報じられた。<sup>48</sup>

また、ヤン・ルカン<sup>14</sup>は、AGI概念を「ナンセンス」と断じ、次の革命はLLMではなく“world models”にある、と述べたと報じられている。<sup>49</sup>

市民団体・人権側からは、WITNESS<sup>50</sup>が「“safe and trusted AI”という言葉が権利基盤アプローチの代替にならない」こと、低中所得国が“ガードレールなしに人口をスケールの資源として差し出す”リスクを指摘している。<sup>51</sup>

またFreedom House<sup>52</sup>は、AIが検閲・監視・偽情報を容易化し得るという観点から「AIがデジタル抑圧を増幅する」問題を継続的に論じている。<sup>53</sup>

## 主要反応者・立場・主張要旨（比較表）

下表は、主要な反応者（または成果物の発出主体）について、立場と要旨を“出典URL付き”で整理したものの。本文中の引用・評価は各記事や公式文書の記載範囲に限定し、表は索引として提示する（URLはコードブロック内にのみ記載）。

主要反応者/主体	立場（概括）	主張要旨（要約）	出典URL
Press Information Bureau (PIB) / MeitY	公式要約（政府）	アルトマン等の基調講演を引用付きで要約。超知能タイムライン、民主化を強調	<a href="https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230370">https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230370</a>
Ministry of External Affairs (India)	公式（政府）	ニューデリー宣言（AI Impact Summit Declaration）を掲載	<a href="https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/40809/AI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026">https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/40809/AI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026</a>
OpenAI	当事者（企業）	“OpenAI for India”開始、データセンター・教育・拠点拡大等	<a href="https://openai.com/index/openai-for-india/">https://openai.com/index/openai-for-india/</a>
NDTV	メディア（インド）	IAEA型国際調整、民主化、集中が破滅に繋がり得る等を引用	<a href="https://www.ndtv.com/india-news/openai-chatgpt-chief-sam-altman-at-delhi-summit-shares-one-thing-he-agrees-with-others-on-ai-11069550">https://www.ndtv.com/india-news/openai-chatgpt-chief-sam-altman-at-delhi-summit-shares-one-thing-he-agrees-with-others-on-ai-11069550</a>
Hindustan Times	メディア（インド）	超知能“数年”、2028年末、First Proof等の根拠補足、全体主義取引の拒否を報道	<a href="https://www.hindustantimes.com/india-news/couple-of-years-away-from-superintelligence-altman-101771527344883.html">https://www.hindustantimes.com/india-news/couple-of-years-away-from-superintelligence-altman-101771527344883.html</a>
LiveMint	メディア（インド）	IAEA型調整、バイオモデルのデュアルユース、社会全体アプローチの必要	<a href="https://www.livemint.com/technology/tech-news/ai-impact-summit-2026-openai-chief-sam-altman-calls-for-urgent-global-ai-regulation-11771493496276.html">https://www.livemint.com/technology/tech-news/ai-impact-summit-2026-openai-chief-sam-altman-calls-for-urgent-global-ai-regulation-11771493496276.html</a>
Fortune India	メディア（インド）	「共有は失敗許容」「全体主義的固定化回避」等の文脈を報道	<a href="https://www.fortuneindia.com/technology/sam-altman-says-democratisation-of-ai-is-key-to-a-safe-and-flourishing-future/130548">https://www.fortuneindia.com/technology/sam-altman-says-democratisation-of-ai-is-key-to-a-safe-and-flourishing-future/130548</a>
The Guardian	メディア（英）	マクロンのEU規制擁護、子どもの安全、国際ガバナンスを報道	<a href="https://www.theguardian.com/technology/2026/feb/19/emmanuel-macron-eu-ai-rules-child-safety-digital-abuse">https://www.theguardian.com/technology/2026/feb/19/emmanuel-macron-eu-ai-rules-child-safety-digital-abuse</a>
Reuters	メディア（国際）	進行混乱・キャンセル・投資表明・政治的反応など“イベント面”も強調	<a href="https://www.reuters.com/world/india/bill-gates-cancels-keynote-address-india-ai-summit-2026-02-19/">https://www.reuters.com/world/india/bill-gates-cancels-keynote-address-india-ai-summit-2026-02-19/</a>
Associated Press	メディア（国際）	モディのAI推進、グテーレス提案、サミットの狙いと課題を報道	<a href="https://apnews.com/article/67c2b5a37f98e0a6ebb81136e0287969">https://apnews.com/article/67c2b5a37f98e0a6ebb81136e0287969</a>
CNN (Transcripts)	メディア（国際）	“democratization vs centralization”を短い映像クリップで引用	<a href="https://transcripts.cnn.com/show/cnr/date/2026-02-19/segment/20">https://transcripts.cnn.com/show/cnr/date/2026-02-19/segment/20</a>
WITNESS	市民団体	“trust & safety”の言葉と権利基盤の乖離、AI植民地主義懸念等を論点化	<a href="https://www.witness.org/trust-in-what-we-see-what-the-ai-impact-summit-must-get-right-on-audiovisual-truth/">https://www.witness.org/trust-in-what-we-see-what-the-ai-impact-summit-must-get-right-on-audiovisual-truth/</a>
Freedom House	市民団体	AIがデジタル抑圧（検閲・監視・偽情報）を増幅し得ると指摘	<a href="https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2023/repressive-power-artificial-intelligence">https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2023/repressive-power-artificial-intelligence</a>
Moneycontrol	メディア（インド）	ルカンがAGIを否定、次の革命はworld modelsと主張	<a href="https://www.moneycontrol.com/artificial-intelligence/the-next-ai-revolution-is-coming-but-it-is-not-agi-and-not-coming-next-year-yann-lecun-at-ai-summit-article-13837542.html">https://www.moneycontrol.com/artificial-intelligence/the-next-ai-revolution-is-coming-but-it-is-not-agi-and-not-coming-next-year-yann-lecun-at-ai-summit-article-13837542.html</a>
Hindustan Times (ハサビス)	メディア（インド）	ハサビスがAGI“5-8年”、継続学習等の欠落を指摘	<a href="https://www.hindustantimes.com/business/demis-hassabis-sees-agi-on-the-horizon-in-5-8-years-as-we-aren-t-there-yet-101771389981830.html">https://www.hindustantimes.com/business/demis-hassabis-sees-agi-on-the-horizon-in-5-8-years-as-we-aren-t-there-yet-101771389981830.html</a>

## 国内外メディア報道の違い（比較）

インド国内メディアは、アルトマンの民主化・IAEA類比・雇用変化などの“発言内容”に加え、インド市場（過次ユーザー数等）や提携（データセンター等）を強調する傾向がある。<sup>54</sup>

国際メディアは、規制哲学の対立（EU規制擁護 vs 米側の規制観）、地政学（米印連携、AI主権、依存構造）や、運営混乱・主要登壇者キャンセルといった“サミット政治・運営面”も大きく扱っている。<sup>55</sup>

## 技術的根拠とタイムラインの妥当性

### アルトマンが示した“根拠”と関連一次資料

アルトマンは講演（および講演後の記者対応とされる場）で、AI能力が「高校レベルの数学→研究レベル」「理論物理で新結果」へ急伸したという趣旨を述べたとされ、映像トランスクリプトに明示されている。<sup>56</sup> この主張は、同時期のOpenAI<sup>1</sup>の研究公開と接続する。

第一に、数学方面の根拠として言及されたのが「First Proof」である。OpenAIはFirst Proof問題に対する提出（proof attempts）を公開し、10問の研究レベル問題に対し、少なくとも5つについて「正しい可能性が高い」と述べ、いくつかはレビュー中で、1つは当初の見立てを修正して「誤り」と判断したと記している。<sup>57</sup>

一方、Hindustan Timesは、アルトマンが「7/10」と述べたと報じており、“講演直後の発言（暫定的自己評価）”と“OpenAIの後日の公式整理（レビュー反映）”に差がある可能性がある。ここは、一次公表（OpenAI掲載）の方を優先し、「7/10」は“未確定の口頭評価”として扱うのが厳密である。<sup>58</sup>

第二に、理論物理についてOpenAIは「GPT-5.2がプレプリントで提案した式が検証された」旨を公表している。これ自体は“人間研究の文脈での貢献”として書かれており、強い表現の見出しが誤解を生み得る点は、第三者議論でも指摘されている。<sup>59</sup>

したがって、アルトマンの「研究レベル」主張は、一定の根拠（公開物）と結びつくが、そこから直ちに「超知能が2028年末までに確実」という推論は、論理的には飛躍が残る。

### タイムライン（2028年末）評価：コンセンサスではなく“分岐する見立て”

アルトマンの述べ方は「われわれが正しいなら（If we are right）」という条件付きであり、さらに「間違っているかもしれない」と語ったとされる。<sup>30</sup>

同じサミット周辺でも、AI研究の有力者間で見立ては割れている。

デミス・ハサビス<sup>13</sup>は、AGIを「地平線上（on the horizon）」としつつ、現状のAIを“jagged（凸凹）”と表現し、継続学習・長期計画・一貫性の欠落を挙げている。<sup>48</sup>

ヤン・ルカン<sup>14</sup>はさらに強く、AGI概念の妥当性自体を否定し、次の鍵を“world models”に置く。<sup>49</sup>

この状況は、アルトマンの2028年言及を「業界の総意」ではなく、**特定のロードマップ観（スケーリング＋反復的展開＋社会制度調整）に立った“最も攻撃的なタイムラインの一つ”**として位置づけることを要請する。<sup>60</sup>

補足として、過去数年で数学能力が急伸した例（AIによるIMO金相当到達など）は国際報道でも確認されており、“能力ジャンプが起り得る”こと自体は否定しにくい。<sup>61</sup>

ただし、Scientific AmericanはFirst Proofの結果を「mixed」と評し、研究数学の正しさ判定が難しく、人間の検証が不可欠である点を強調しているため、過度な外挿には慎重さがある。<sup>62</sup>

## 政策的含意とリスク評価、今後の展開と推奨アクション

### 国際ガバナンス案の含意：IAEA類比は何を意味するか

アルトマンは、AIの国際調整のために「IAEAのようなもの」を要すると述べたと報じられる。<sup>40</sup> 国際原子力機関<sup>63</sup>（IAEA）のコア機能は、（1）平和利用の促進、（2）セーフガード（査察・検証）による核拡散抑止、（3）安全・セキュリティ標準の支援、などに整理される。特にセーフガードは「核物質・技術の不正利用を早期に検知することで拡散を抑止」することを目的としている。<sup>64</sup> AIにこれを当てはめると、少なくとも以下の制度論が含意される。

第一に「検証（verification）」である。核の世界では測定対象（核物質、施設）が比較的明確だが、AIでは“モデル重み”“計算資源”“データ”“能力評価”が対象になり得る。しかし、AI能力は容易に複製・分散し得るため、核以上に検証の設計が難しい。<sup>65</sup> 第二に「迅速対応」である。アルトマンは“急速に状況が変わる”ことを前提に、機関が迅速に対応できる必要性に触れている。<sup>40</sup> 第三に「主権との緊張」である。ニューデリー宣言は「国家主権の尊重」を明記しつつ国際協力をうたう一方、実体は“任意・非拘束”の枠組みに留めている。これは、強制力のある“IAEA型”が直ちに受容されにくい現実を示す。<sup>66</sup>

### “民主化”の手段と、ニューデリー宣言との接続

アルトマンの「民主化」は、口先の理念だけでなく、少なくとも以下の政策・投資論点に分解できる。

第一に、**計算資源・データセンター・低レイテンシ**といった“物理インフラのアクセス”である。OpenAIはインドでのデータセンター整備（100MW→将来1GW可能性）を打ち出し、政府・ミッションクリティカル用途の要件（データレジデンシ等）も明記している。<sup>25</sup> 第二に、**人材・教育**である。OpenAIは100,000以上のChatGPT Eduライセンス供与、認定制度拡大などを掲げた。<sup>25</sup> インド側も人材・リスクリングを宣言の柱に置く。<sup>67</sup> 第三に、**評価と信頼**である。ニューデリー宣言が言及するTrusted AI Commons（ツール・ベンチマークの共有）は、民主化に伴う安全性低下を抑える“共通財”として位置づけられる。<sup>42</sup> 第四に、**ユースケース共有**である。Global AI Impact Commonsは適用事例の共有・再利用を狙うが、ここには“誰が成功基準を定義し、誰の価値が埋め込まれるか”という政治性が付きまとう。<sup>68</sup>

### 全体主義リスクの具体化と確率評価

#### 具体化（どのように“全体主義化”が進むか）

アルトマンの問題設定は「AIが一企業・一国に集中することで破滅に繋がり得る」「全体主義との取引を拒否する」という形で提示される。<sup>69</sup> この“集中”が全体主義化に接続する現実的経路は、既存研究・人権報告から、少なくとも次の3ルートが考えられる。

第一に、**監視・検閲・プロパガンダの自動化**である。Freedom HouseはAIがデジタル抑圧（検閲・監視・偽情報）を増幅し得ると述べている。<sup>53</sup> 第二に、“ブラックボックス化した予測・スコアリング”による恣意的統治である。法政策系の論考でも、AI監視が権威主義を促進し得ると論じられ、司法・立法の介入可能性が議論されている。<sup>70</sup> 第三に、**国境を越えたAI支配構造（依存と規範輸出）**である。国際報道は、グローバルサウスが“AI資源（モデル・半導体・クラウド）”を持つ側への依存を強めるリスクを指摘している。<sup>71</sup> WITNESSは、人権に基づく枠組みが薄いまま“安全・信頼”語彙で進むことへの懸念を示しており、規範面の弱点を補強する。<sup>51</sup>

## 確率評価（推定：不確実性を明示）

ここからの確率は、上記の一次・二次資料が直接数値を与えていないため、**本レポート作成者の主観的推定**である。推定は「2026年時点のデジタル抑圧の趨勢（Freedom House等）」「AIインフラ集中が進む事実（投資・データセンター競争）」「国際ガバナンスが任意枠組みに留まりやすい現実」を前提に置く。<sup>72</sup>

推定レンジ（2026～2030を中心に）

- ・ **レベル1**（“AIによる抑圧の増幅”が複数国で進む）：70～90%

根拠：既にAIが検閲・監視・偽情報を増幅し得るという観測が強く、制度的歯止めが国によって不均質である。<sup>73</sup>

- ・ **レベル2**（“一部国家で、統治の中核にAIが組み込まれ、反対派抑圧が質的に強化される”）：30～60%

根拠：AI投資・監視技術の拡散と、権威主義的統治の既存基盤が結びつく可能性。<sup>74</sup>

- ・ **レベル3**（“単一アクターが超強力AIを独占し、‘cemented’な全体主義的秩序を長期固定化”）：1～10%

根拠：実現には技術的飛躍だけでなく、国際政治・企業統治・社会契約の複合条件が必要で、反作用（対抗連合、分散化、技術流出）も予想される。一方で、アルトマン自身が“集中の破滅”を懸念し、IAEA型調整を提案したことは、ゼロではないことを示唆する。<sup>75</sup>

## 今後の展開予測と推奨アクション

### 近未来の展開予測（確認済み事実+条件付き予測を分離）

確認済み（公式）

- ・ OpenAIはインドで“OpenAI for India”を開始し、データセンター協業・教育・拠点拡大（ムンバイ／ベンガルールを年内予定）を表明している。<sup>25</sup>
- ・ インド政府はAIガバナンス指針でAI Safety Institute等の新機関設置を提案している。<sup>76</sup>
- ・ ニューデリー宣言は、CommonsやCharterなど任意の国際協働枠組みを列挙し、継続協力をうたっている。<sup>42</sup>

条件付き（推測：不確実性あり）

- ・ 国際ガバナンスは、短期的には“任意枠組み+ベストプラクティス共有”が中心になりやすく、IAEA型の強制力ある枠組みは、主要国の規制哲学差（中央規制への態度差）次第で停滞する可能性がある。<sup>77</sup>
- ・ 技術面は、First Proofのような“研究レベル評価”が増え、能力の見積もり争い（楽観 vs 懐疑）が制度設計の前提を揺らし続ける。<sup>78</sup>

### 推奨アクション（日本の政策・企業・研究者コミュニティを想定）

ここでは、ニューデリー宣言の方向性（民主化・信頼・人材）と、人権・安全の懸念（監視濫用・デュアルユース）を同時に満たす“最小後悔（regret minimization）”の行動を提案する。<sup>79</sup>

政府・規制当局

- ・ “民主化”を単にオープン化と捉えず、**評価（Trusted AI Commons型）・監査・救済**をセットで制度化する（権利基盤の観点を置く）。<sup>80</sup>
- ・ 国際協調は、強制力の有無を二分法にせず、まずは“測れるもの（評価・事故報告・透明性指標）”を揃える。IAEAのセーフガードが「早期検知」に重心を置くことは参考になる。<sup>81</sup>
- ・ AIによる監視強化を抑えるため、輸出管理・調達基準・公共部門ガイドラインに“監視・抑圧用途のレッドライン”を明確化する（人権影響評価の義務化等）。<sup>74</sup>

企業

- ・ “集中の危険”に対する実装上の答えとして、モデル提供だけでなく、**データレジデンシ／説明責任／監査可能性**を契約・技術で担保する（OpenAI for Indiaが示した要件群は参照点）。<sup>82</sup>

・バイオ等デュアルユース領域は、オープン化の速度と範囲を“社会防衛”と同期させる（危険領域は段階的公開・監視・検知の整備を先行）。<sup>39</sup>

研究者・市民社会

・研究コミュニティは、First Proofのような評価に対し、**正しさの検証プロセス**（再現性・査読・形式検証の限界）を前面に出し、過度な煽りと過度な過小評価の両方を抑える。<sup>83</sup>

・市民社会は、“AI safety”の議題を“国家安全”へ回収されないよう、人権（表現の自由、プライバシー、救済）の言語で要求仕様を固定する。<sup>84</sup>

## タイムライン（講演→反応→今後の予定）

下図は、一次確認できた日付（公式発表・公式文書）を中心に、講演と反応の流れを整理した。なお、矢印右側の一部は「予定」または「推測」を含む。

timeline

title India AI Impact Summit 2026：講演→反応→次の論点

2026-02-15：（公式アプリ記載）サミット週開始（～02/20）

2026-02-18：OpenAIが“OpenAI for India”を発表

2026-02-19：サム・アルトマン基調講演（超知能・2028年末・民主化・集中リスク・IAEA類比）

2026-02-19：主要メディアが発言を引用（民主化、集中の危険、規制の緊急性）

2026-02-21：ニューデリー宣言採択（任意・非拘束の枠組み：Charter/Commons等）

2026-H2：OpenAIがムンバイ/ベンガルール拠点開設を計画（年内予定）

2026-：（政策実装）AI Safety Institute等の国内制度整備・国際協力の具体化（不確実）

（図の根拠となる日付・出来事）<sup>85</sup>

<sup>1</sup> <sup>71</sup> <https://www.theguardian.com/world/2026/feb/20/india-delhi-summit-ai-technology-us-economic-growth>

<https://www.theguardian.com/world/2026/feb/20/india-delhi-summit-ai-technology-us-economic-growth>

<sup>2</sup> <sup>8</sup> <sup>25</sup> <sup>82</sup> <https://openai.com/index/openai-for-india/>

<https://openai.com/index/openai-for-india/>

<sup>3</sup> <sup>10</sup> <sup>12</sup> <sup>16</sup> <sup>30</sup> <sup>33</sup> <https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230370&lang=1®=6>

<https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230370&lang=1®=6>

<sup>4</sup> <sup>26</sup> <sup>29</sup> (no title)

<sup>5</sup> <sup>14</sup> <sup>28</sup> <sup>32</sup> <sup>43</sup> <sup>56</sup> <https://www.dailymotion.com/video/xa0d7kq>

<https://www.dailymotion.com/video/xa0d7kq>

<sup>6</sup> <sup>21</sup> <sup>23</sup> <sup>42</sup> <sup>66</sup> <sup>67</sup> <sup>68</sup> <sup>79</sup> <sup>80</sup> <https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2231208>

<https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2231208>

<sup>7</sup> <sup>13</sup> <sup>38</sup> <sup>39</sup> <https://www.livemint.com/technology/tech-news/ai-impact-summit-2026-openai-chief-sam-altman-calls-for-urgent-global-ai-regulation-11771493496276.html>

<https://www.livemint.com/technology/tech-news/ai-impact-summit-2026-openai-chief-sam-altman-calls-for-urgent-global-ai-regulation-11771493496276.html>

<sup>9</sup> <sup>57</sup> <sup>78</sup> <sup>83</sup> <https://openai.com/index/first-proof-submissions/>

<https://openai.com/index/first-proof-submissions/>

11 46 55 <https://www.theguardian.com/technology/2026/feb/19/emmanuel-macron-eu-ai-rules-child-safety-digital-abuse>

<https://www.theguardian.com/technology/2026/feb/19/emmanuel-macron-eu-ai-rules-child-safety-digital-abuse>

15 48 63 <https://www.hindustantimes.com/business/demis-hassabis-sees-agi-on-the-horizon-in-5-8-years-as-we-aren-t-there-yet-101771389981830.html>

<https://www.hindustantimes.com/business/demis-hassabis-sees-agi-on-the-horizon-in-5-8-years-as-we-aren-t-there-yet-101771389981830.html>

17 72 <https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2025/uncertain-future-global-internet>

<https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2025/uncertain-future-global-internet>

18 34 40 54 69 75 <https://www.ndtv.com/india-news/openai-chatgpt-chief-sam-altman-at-delhi-summit-shares-one-thing-he-agrees-with-others-on-ai-11069550>

<https://www.ndtv.com/india-news/openai-chatgpt-chief-sam-altman-at-delhi-summit-shares-one-thing-he-agrees-with-others-on-ai-11069550>

19 62 <https://www.scientificamerican.com/article/first-proof-is-ais-toughest-math-test-yet-the-results-are-mixed/>

<https://www.scientificamerican.com/article/first-proof-is-ais-toughest-math-test-yet-the-results-are-mixed/>

20 85 <https://play.google.com/store/apps/details?hl=ja&id=com.meity.aisummit2026>

<https://play.google.com/store/apps/details?hl=ja&id=com.meity.aisummit2026>

22 36 41 58 60 <https://www.hindustantimes.com/india-news/couple-of-years-away-from-superintelligence-altman-101771527344883.html>

<https://www.hindustantimes.com/india-news/couple-of-years-away-from-superintelligence-altman-101771527344883.html>

24 [https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?](https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl%2F40809%2FAI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026=)

[dtl%2F40809%2FAI\\_Impact\\_Summit\\_Declaration\\_New\\_Delhi\\_February\\_18\\_\\_19\\_2026=](https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl%2F40809%2FAI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026=)

[https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?](https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl%2F40809%2FAI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026=)

[dtl%2F40809%2FAI\\_Impact\\_Summit\\_Declaration\\_New\\_Delhi\\_February\\_18\\_\\_19\\_2026=](https://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl%2F40809%2FAI_Impact_Summit_Declaration_New_Delhi_February_18__19_2026=)

27 31 50 52 53 73 <https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2023/repressive-power-artificial-intelligence>

<https://freedomhouse.org/report/freedom-net/2023/repressive-power-artificial-intelligence>

35 <https://transcripts.cnn.com/show/cnr/date/2026-02-19/segment/20>

<https://transcripts.cnn.com/show/cnr/date/2026-02-19/segment/20>

37 <https://www.fortuneindia.com/technology/sam-altman-says-democratisation-of-ai-is-key-to-a-safe-and-flourishing-future/130548>

<https://www.fortuneindia.com/technology/sam-altman-says-democratisation-of-ai-is-key-to-a-safe-and-flourishing-future/130548>

44 <https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230201&lang=2®=3>

<https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2230201&lang=2®=3>

45 77 <https://www.ft.com/content/5c26f2f6-c857-407c-93fe-7f59aa88c8f4>

<https://www.ft.com/content/5c26f2f6-c857-407c-93fe-7f59aa88c8f4>

47 49 <https://www.moneycontrol.com/artificial-intelligence/the-next-ai-revolution-is-coming-but-it-s-not-agi-and-not-coming-next-year-yann-lecun-at-ai-summit-article-13837542.html>

<https://www.moneycontrol.com/artificial-intelligence/the-next-ai-revolution-is-coming-but-it-s-not-agi-and-not-coming-next-year-yann-lecun-at-ai-summit-article-13837542.html>

51 84 <https://www.witness.org/trust-in-what-we-see-what-the-ai-impact-summit-must-get-right-on-audiovisual-truth/>

<https://www.witness.org/trust-in-what-we-see-what-the-ai-impact-summit-must-get-right-on-audiovisual-truth/>

59 <https://openai.com/index/new-result-theoretical-physics/>

<https://openai.com/index/new-result-theoretical-physics/>

61 <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/google-openais-ai-models-win-milestone-gold-global-math-competition-2025-07-21/>

<https://www.reuters.com/world/asia-pacific/google-openais-ai-models-win-milestone-gold-global-math-competition-2025-07-21/>

64 65 81 <https://www.iaea.org/topics/basics-of-iaea-safeguards>

<https://www.iaea.org/topics/basics-of-iaea-safeguards>

70 74 <https://www.lawfaremedia.org/article/the-authoritarian-risks-of-ai-surveillance>

<https://www.lawfaremedia.org/article/the-authoritarian-risks-of-ai-surveillance>

76 <https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2228315>

<https://www.pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=2228315>